

令和5年度 いこま SDGs アクションネットワーク アドバイザー会議（第1回）

開催日時：令和5年5月1日(月) 10:00～11:00

開催場所：生駒市コミュニティセンター 206 会議室

出席者

(参加者) 浦林直子氏、清水綾氏、松田裕貴氏

(事務局) SDGs 推進課長金子、SDGs 推進課課長補佐木口、SDGs 推進課主幹兼 SDGs 推進係長吉村、SDGs 連携推進係員藤村

案件

議題1 令和5年度 SDGs 推進事業補助金申請事業の評価

事務局から令和5年度の補助要綱について説明

事務局から申請事業の説明（竹のみりよくはっけん！たけあそびワークショップ）

浦林氏 イベントの申し込み状況は。

事務局 把握できてない。

浦林氏 参加者の募集方法は。

事務局 広報で周知されている。

浦林氏 今回の申請事業は、申請団体両者の目的に合っている。
これとは別に歯ブラシづくりをしているとも聞いている。

事務局 会場の「ひより」は旧高山幼稚園跡地を利活用して設立。地域で受け入れてもらい、事業に取り組まれている。それらを知ってもらえるイベントになればいい。
今回のイベントによる相乗効果で地域が盛り上がってほしいと考えている。

松田氏 イベントの実施日が間近だが、この企画は補助金に採択されなかった場合どうなるのか。

事務局 採択されなくても実施される予定。

松田氏 補助事業の制度設計の部分にも関わるが、採択の可否はアドバイザー会議の開催周期に左右されることになる。今回のように申請から実施の期日が近い場合、補助金の審査が間に合わないというケースも出てくることも想定される。

事務局 申請事業のスムーズな審査と併せ、アドバイザーの皆様のご負担の軽減のためにも、申請事業に対する評価などは、メールなどの形でもさせていただきたい。

【アドバイザー評価表記入】

事務局 採点の結果60点を上回っている。

この後、事務局でも審査を行い、申請事業の採択について可否を決する。

事務局 今年度の補助事業は、募集期間を、令和5年4月1日から令和6年1月31日として、期間を長く設けた。

今後も申請があった場合はよろしくお願ひしたい。

議題2 令和4年度のいこまSDGsアクションネットワークの取組に係る報告

事務局からネットワークの現況、令和4年度の活動状況について報告

議題3 令和5年度のいこまSDGsアクションネットワークの運用

松田氏 補助事業についてだが、今回は募集期間が長いため、受け付け次第随時審査していくとのこと。

そのため、事業に対し相対的に比較できず、絶対評価になってしまう。

予算の枠を超えて、受け付けられなくなった場合、既に採択されている事業よりも評価が高くても、予算不足のせいで補助採択ができないというケースも想定される。その部分についてはどのように考えているか。

事務局 ご指摘のようなケースも考えられるが、そういった事態ができるだけ起こらないよう、補助金額の予算枠を増額したところ。また、これまでの実績からみると、予算の枠内には収まるものと見込んでいる。

アドバイザーの皆様には、予算の残額のことは気にせず、申請事業に対し都度フラットな目で評価いただきたい。

松田氏 もう一点。補助事業の募集を4月1日から開始したとのことだが、ホームページ以外の周知方法は。

事務局 会員向けの補助事業なので、会員にはメールで知らせている。

松田氏 Noteなどのオープンな媒体でも周知してみたいか。

多様な主体の提案を呼び込む工夫が必要だと感じる。

現状の補助事業は、いずれもイベント関係がほとんど。

これから申請を考える方は、過去の採択事業などを確認すると思うが、この傾向を見ると、イベントでないといけないのかもしれない、という印象を持ってしまうという懸念がある。

そういう偏りを防ぐためにも、想定している事業の形態のような例示を行うのはいかがだろうか。

事務局 ご意見として承る。

浦林氏 昨年度の活動報告の中でもあった「くらしのブンカサイ」についてだが、こちらの実施主体はどこか。

事務局 実施主体は市だが、企画運営業務として準備から当日のことも含め一連を事業者へ委託。

浦林氏 今年度はどのようにする予定か。

事務局 今年度も概ね同様。プロポーザルの提案事業者の募集はじき公告する。

イベントも、11月5日にぴっくり通りをはじめとする駅周辺を会場とする予定。

事務局 市としても、生駒駅南口の利活用、魅力向上は重要な施策として取り上げており、今回の企画もそこに連携、参画する形で事業を実施したいと考えている。

浦林氏 委託事業者は公募するということだが、昨年度、市外事業者が受託した経緯は。

事務局 プロポーザルで事業提案を受け、提案のあった2者のなかから最も評価の高かった事業

者が選定された。

浦林氏 これまではエコネットいこまが主催していたのか。

事務局 これまでも主催は市。市がエコネットいこまに委託していた。

浦林氏 市外の事業者中心よりも、市民の当事者意識を高めるという意味合いで、市民の手で企画・運営できたら良いのでは。

松田氏 イベント名も「くらしのブンカサイ」で何がテーマの企画なのか伝わりにくい。

事務局 企画の見直しは昨年度から取り組み始めたところ。まだしばらくは試行錯誤する部分があるかもしれないが、昨年度は新たに実行委員会も設立して動き出したところ。時間はかかるかもしれないが、今後はこういった実行委員会が自立し、市民主体のイベントにしていきたいと考えている。

浦林氏 イベント名と関連して、今年度の新規事業に挙げられている、セッションミーティングやSDGs デリバリーなども名称だけでは内容のイメージが湧きにくい。内容についても併せてきちんと説明をする必要がある。

清水氏 くらしのブンカサイでは集客はいまいちだったように思える。
ただ、昨年度の実行委員会では高校生も参加されていた。高校生にとっても良い経験。いろんなことが変わってもこれは継続していただきたい。

松田氏 補助事業の活用が振るわないとの課題感を挙げられていたが、その背景には会員間のつながりが不足していることが要因としてもあると思う。うまく繋がれる場がさらに増えていかないと、アクションネットワークが結局何かわからず終わってしまう。
セッションミーティングの立て方として、やりたいことベースでのテーマ先行でとのことだが、これでは今までと同じでただの情報交換で終わってしまう懸念もある。
実際の地域の課題をテーマに設けることで、実際に課題を解決するという目的も立ち、より具体的な活動に繋がると思うし、企業も加わりやすいのではないかと。
やりたいことベースの立て方と併用するのが良いだろう。

浦林氏 地域課題のことを深く知っている人が場に居ていないと机上の空論にとどまってしまう。アドバイザーだけではやはり動かすのは難しい。

松田氏 課題を抱えている人に場に出てきてもらうことが大切だが、それは企業・団体だけでは難しく、市は信頼性などもあり呼び込みやすくなる。

事務局 セッションミーティングについては、現在制度の立て方について検討中。
皆様のご意見も参考にさせていただく。